

## 会 議 概 要 書

審議会等の 名 称	第10期第1回 磐田市環境市民会議
担当部課名	環境水道部 環境課
会 議 の 開 催 日 時	令和6年11月19(火)午前10時～午前11時30分
会 議 の 開 催 場 所	市役所西庁舎 3階 302・303 会議室
出席者 (職・氏名)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・委員14名 (出席者14名) 佐藤和美、内野稔、鵜藤美保子、萩本幸好、玉木良汰、 小野里美、小高真聖、藤目葉子、平野碧梨、大箸千賀子、 水野誠二、保崎有香、石黒信子、内藤圭吾(敬称略)</li> <li>・(事務局5名) 環境水道部長、環境課長、環境政策グループ長、 環境政策グループ主任2名</li> </ul>
議 題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・議事</li> <li>(1)第2次磐田市環境基本計画後期計画について</li> <li>(2)意見交換</li> </ul>
配付資料等 の 件 名	(1)第2次磐田市環境基本計画後期計画冊子
会 議 録	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1)委嘱状交付</li> <li>(2)環境水道部長あいさつ</li> <li>(3)職員紹介</li> <li>(4)会長及び副会長の選任について 佐藤委員が推薦され、全員の承認を得て会長に選任された。その後、佐藤 会長の指名により、内野委員が副会長に選任された。</li> <li>(5)会長あいさつ</li> <li>(6)議事 ①第2次磐田市環境基本計画後期計画について</li> </ul>

事務局より市民会議及び第2次磐田市環境基本計画後期計画の概要説明があった。

《意見・質問》

委員：計画の策定方針の中に、環境教育、環境学習に関する取組みを推進した計画づくりで、学生に向けた環境学習 100%ということで、結構されているなと思ったのですが、現時点で市民向けに、教育や環境学習を実際どういうことをやっているかお聞きしたいです。

事務局：まず、市民向けにやっている内容ですが、毎年 12 月に市民向けに冠講座という形で実施します。又、桶ヶ谷沼につきましては、企業と連携した内容になりますが、今年度も5回ほど環境保全活動を実施していますし、来年度以降も、実施していきたいと考えております。

委員：環境計画に関して、市民に対しての啓発、通知などはしていますか。各戸に配っていますか。せっかくこれだけのものをつくっているのに、市民の皆さんに広げていないのはもったいないのかなという気がします。ただ配れば良いというものでもないのですが、ホームページなどで見れば良いという感じでしょうか。

事務局：定期的に市の広報紙に、いろいろな形で周知しているほか、年に1回「磐田の環境」を作成し、ホームページで1年間の実績について周知しています。やはり、皆さんに広く広報するということは、市の広報紙が1番だと思います。タイムリーな情報は、市のホームページで周知をさせていただいております。

冒頭、説明をさせていただきましたが、環境に配慮していきたいという観点から、紙の資料を減らしていきたいという思いでいます。広報紙は、多くの皆さんに、特に年配の方に、かなり注意深く読んでいただけますので、そういう形で伝えています。さらにSNSという手段もありますので、その都度発信していきたいと思っています。

会長：ある程度上の人たちと若年層とでは、広報の仕方が若干違うという

ことですね。環境問題というのは、市一丸となって取り組まないとなかなか達成できないですので、そういった意味では、ホームページまでアクセスしていく意思がないと、そこに到達できないというデメリットも鑑みて、市民や産業が一体となって動くという意味で、広報をどんなふうに行っていけばいいのか、改めて考えなければいけないかもしれませんね。

委員：環境基本計画は、ホームページを見て知るのでよね。学生からすると、そのホームページを自分から見るということはあまりしないです。学生だとSNSを活用していて、私の友人も特にインスタグラムを活用しています。そういう報告で、磐田市の取り組みなどをインスタグラムの投稿にすぐ載せたりすれば、学生にも、磐田市の取り組みをもっと知ってもらえると思うので、インターネットなどの活用を推進していただきたいと思います。

会長：いろいろな世代が集まって、いろいろな視点で環境について語るのがこの会議ですから、そういう意味でも貴重なご意見をありがとうございます。

## ②意見交換

自己紹介を含めながら、日頃の活動や環境に対する思いを紹介していただければと思います。

### 【小高委員】

出身は栃木県ですが、実践的な農業を学びたいため磐田市にある静岡県立農林環境専門職大学に通うことにしました。実家では、稲作農業を行っていて、農業で経営を成り立たせたいという夢があり、また、稲作や野菜などを栽培するという技術を身につけたいという思いもあり、この会議に参加させていただきました。今行っている取り組みとしては、大学で栽培コースに所属していて、今はキャベツやレタスなどの栽培を行っており、実際に計画して栽培

する過程から販売するところまで、その事業の一環として行っています。他の取組みですが、浜松市の白檀(しらかし)の棚田というところで、実際に地域の方々と、棚田で田植えや稲刈りをしています。平たんな地域では行えない山間部ならではの農業の取組みを見て、環境市民会議に参加したいと思いました。

#### 【大箸委員】

農業は作物もつくりますが、水路、雑草繁茂、荒廃農地と様々な問題があります。特に太陽光発電の雑草についてですが、環境課にも問合せがたくさんあるのではないのかなと思っております。農業委員会では、田畑に太陽光発電を設置する許可申請を行っております。審議時にいつも問題になるのが、雑草の除去についてです。設置者の多くは地元でないために、下請企業に管理が任されているのが実情です。そのため、草の管理が甘くなり、地元住民にかなり迷惑をかけているのが実態です。広告やCMなどでは、「荒廃農地が解消されますよ。地主さん大丈夫ですよ。」ということ、かなりうたっておりますが、実情としては、磐田市の農業委員会は年4回の草刈りをお願いするので、年4回やってくださる方もいますが、中には年2回の方もいます。今年は雑草の繁茂がかなり激しく、ひどい場所を見ますと、パネルよりも高く草が出ている場合もありますし、雑草繁茂は、イノシシなどのすみかになる可能性があります。私たち農業委員会からも、荒廃農地をつくらぬようにという指導もしておりますし、雑草繁茂していると、年1回、下草を刈ってくださいということもお願いするのが実情です。農業委員会だけでは規制をすることが難しいのが現状ですので、環境整備のために、お力をいただきたいです。

#### 【平野委員】

磐田商工会議所では、カーボンニュートラルに力を入れていきます。会議所というよりも、会議所の会員である事業者が、カーボンニュートラルをやっ

ていきたいというところも出始めており、やっていくにあたり、何か施設を変えることとなりますので、やりたいけども売上げが落ちたり、そういった設備を導入できずに困っている事業所をお見受けします。磐田商工会議所といたしましては、今年度に令和7年度の行政要望を市長に提出させていただいたのですが、その中の一つに、脱炭素化に向けた施策として、そういった支援策を出していただけないかということがあります。皆さんとまた別視点でのアプローチにはなるのですが、磐田市の環境保全に、微力ながらご協力させていただければと思っております。

会 長：カーボンニュートラルの対策といっても視点がいっぱいありますよね。

できるところからというと、どういうところが主な施策になりますか。

委 員：簡単などころではありますが、本当にご家庭でもされているようなことと全く同じで、節電、節水、空調の管理などです。そういったことをこまめにやっていくことで、少しずつ、一事業所の出す排出量が減っていき、全体が減っていくという形です。そこからまた機械を導入したり、大きく生産方法を変えたりとなっていくのかなと思います。

【内藤委員】

県の環境局は、7つの課があり、磐田市の環境部をカバーしているような分野や、特殊なところでは熱海で事件がありました盛土の対策など、たいへん広範なものを所管しております。私がおります環境政策課はカーボンニュートラルや環境学習、環境教育も所管をしています。私個人はこれまで経済産業系の部署に多く所属していたのですが、今年度初めて環境部に異動になり、いろいろ勉強させていただいています。やはり経済・産業と環境はたいへん密接で切り離せない状況になっていて、今までやってきたことも結構、関係しているなど思っています。カーボンニュートラルが、どういう取組みがあるかですが、重要な課題がありまして、一つはやはり補助金です。中小企業の照明や空調に今年も補助金を出していますが、それを支援できる企業は多

くて数百社になります。ただ、中小企業は県内に数万社とありますので、それではカバーしきれませんので、今年度初めての取組みとして、金融機関との連携を始めました。中小企業は脱炭素に取り組まれているところと、まだ全然これからというところもあるので、所長さん、経営者さんがその気になってもらうことが1番大事です。県内 13 ある金融機関の行員に脱炭素の知識を身に付けてもらうため、県と連携してもらっています。知識を身に付けた上で中小企業に融資や経営支援の話の中で、脱炭素に取り組んでもらおうということで、数万社ある中小企業にアプローチしていく取組みを始めているところです。

#### 【石黒委員】

地球温暖化防止活動推進センター非常勤ということで、小学校に行って、子供たちに「無駄なことやもったいないことを減らしていけば、地球環境に優しくなれるよね」というような話をしています。また、「榛原ふるさとの森」で、子供たちを指導し、森の中を歩いて「自然環境って大事だよ」と伝えていきます。さらに、20 数年前に2期生として、県の環境道場という環境活動を始めたのですが、そのときに「プロジェクトワイルド」というアメリカから来た環境学習指導というものを取得しまして、そこからずっとそれを使いながら、それぞれがそれぞれの立場でそれぞれの環境に対して何か深めていくというような投げかけをするのですが、そういう指導をさせていただいています。専門学校でも、10 年くらい環境教育のことを伝えさせていただいています。経済と環境を結びつけると、環境を数値化しなければいけなくなります。環境は感覚的に感じるものです。森の中で子供を指導すると、子供たちが非常にいい表情になって「すごくよかった」と言うのですが、数値化できないので、予算がつかえません。私は金谷まで電車で行っているのですが、けっこう交通費がかかり、ボランティアなので最低時給以下で活動をしています。環境を数値化するのは難しいことだと思いますが、結局数値化をある程度出していかないと、目から入ってこないと駄目なのですかね。もう少しその辺が何とかならないかなあと日々憂いております。地球温暖化防止活動推進センターでは子供たちが頑張ったことを数値化して、「これだけCO2が減りましたよ」というこ

とをやっています。環境とは全ての物事を指すので、お金だけじゃない部分があるのですが、悩ましく生きております。

【保崎委員】

私は磐田南高校出身で、高校の時から 20 年以上ベッコウトンボの保全活動に関わらせていただいております、磐田との関わりが非常に深いです。ベッコウトンボはまだ数が安定しないので引き続き保全活動を継続している状況ですが、今いろいろ課題もあり、1番大きいのは会員の高齢化が進んでいて、どうしてもマンパワーが足りないことです。最近はお子さん向けの自然塾を開いたり、少しずつ企業の方もご協力いただいて、そういう環境教育も実施させていただいておりますが、まだ知っていただいている率がそこまで高くないところが、会としても課題になっています。先ほどのお話にもありましたが、ホームページは最近若い方はあまり見られないということなので、そういう発信媒体をまず知っていただくことを進めていかなければならないと思います。磐田はやはり企業が多いですので、企業をうまく巻き込んで、そういう環境活動を進めていくというのが、市としてもいい試みかなと思います。来ていただくやはりお子さんやご家族の方も興味を持ってくださる方も多いので、まず何かしらのきっかけで、自然環境に興味を持っていただく機会を増やすことが大事だと思っております。仕事は、農業法人に勤めており、会社自体はモスバーガーのレタスなどをつくっている会社です。私はそこで養蚕業で蚕を飼う仕事をしており、静岡では絶滅してしまった産業ですが、生き物と触れ合うというところで、最近、桶ヶ谷沼でも蚕を飼ってみたり、触れ合うイベントを実施させていただいております。農業もやはり先ほどお話にもあったような厳しい状況なので、経営難だったり、昨今、気候変動への対応だったり、耕作放棄地が点在しているというところでも、なかなか課題が多いです。農業の関係もありまして、トンボの保全活動をしている一方で、会社で農業を使っているのが心苦しいところがありますが、最近少しずつ環境負荷の少ない農業というところも注目されつつありまして、その辺りも少しずつお金もついてきたり、価値も出てくるようになるので、環境への低負荷な農業やカーボンニュートラルを進めていければいいかなと思っております。

**【水野委員】**

環境保全推進協議会とは何か、市の公式ウェブサイトに掲載があります。地域の環境保全と創造推進を図るため、研修会や情報、環境保全活動をしている組織になります。磐田市内に事業所 76 事業所が加入して構成をしていて、活動は、研修会、例えばセミナーを開催したり、それから環境保全活動、簡単に言うと、清掃活動を計画して実行したりしているという組織体になります。私は今年の7月に、磐田の事業所に転勤して、このポジションについているので、あまり偉そうに言える立ち位置ではございませんが、環境について、身近なものとして取り組んでいます。所属会社は中部電力パワーグリッドです。先ほど、この計画の中で環境教育のお話が出ましたが、磐田市のホームページに環境学習というものが掲載されていて、その中に、中学生向けや小学生向けの環境学習が掲載されています。その中に出前授業というものがあり、電気を中心としたエネルギーに関する環境学習について、出前授業として、弊社のほうで対応させてもらっています。それと個人的なところでは、クルポというアプリがあり、ポイ活できるアプリなのですが、自分自身を振り返ることができ、すごく簡単で分かりやすいものだと思いますし、こういったものの普及を身近なところからやっていくことがいいのではないかと考えているので、あわせて紹介させていただきます。

**【藤目委員】**

今環境の取組みは企業にとって事業活動を継続する上でも不可欠な取組みになっていて、弊社の場合は環境計画 2050 というものをウェブサイト上でも開示しております。環境計画 2050 の中では、三つの分野の取組みをしています。一つ目が、気候変動への対応、CO2を減らすこと。二つ目が資源循環、リサイクルをしっかりとる、廃棄物を減らしていくこと。三つ目が生物多様性。一つ目のCO2の削減では、弊社の場合は特にエンジンを使う製品が主要なところなので、世の中から風当たりが厳しくなっているというところもあります。もちろん、電動化を推し進めていったり、自動車業界ではマルチパスウェイという言い方をしますが、エンジンが悪いわけではなくて、CO2が出ることが悪いわけですから、例えば、燃やしても、CO2が出ない、出ないわけではないですが、使う燃料をガソリンでなくて、生物由来のバイオ燃

料を使ったり、あるいは水素を使ったり、あるいは再生可能エネルギーで発電した電力を使ってつくった、いわゆる e フューエルという代替燃料を使ったり、そういう取組みを進めているところです。あと製品だけでなく、企業活動そのものでいうと、工場から出るCO2 の削減にも取り組んでいます。二つ目の資源循環についてですが、弊社は製造業ですので、使う材料、例えばアルミや鉄などを自然に優しく再生したのを使うようにしています。あと工場で出る廃棄物をできるだけ減らすような作り方ができないか、あるいは、輸送で使う梱包材を環境に優しいものにできないかといった取組みも行っています。三つ目の自然と共生するという生物多様性についてはなかなか概念が広くて難しいところがありますが、自然と共生できる企業活動や、製品をしっかりと提供していくということが生物多様性になっていくと思います。オートバイや船はレジャーに使っていただくことも多いので、レジャーというと自然の中で使っていただくことになりますので、自然そのものをしっかり守れていないと、使っていただけるフィールドがなくなってしまうことになります。どの企業でもどの事業も自然に対して影響を与えていない事業はないので、同じように考えていくと、自然に対してどんな取組みをしていくかがキーワードになっている気がします。今弊社が次の課題として捉えているのは、環境への取組みは自社の取組みだけで終わらなく、バリューチェーン全体の取組みが求められています。特に製造業ですとサプライヤーさんとどうやって連携していくかがすごく大きな課題です。すでに取り組んでいるのは、グローバルな競争に勝つために、今までですと、品質や性能がよい製品を出せば、お客様が買ってくれていたのですが、これからは環境に対して負荷が大きい製品だとお客様が敬遠するような時代になってきています。そのため、単純に品質がいいとか、性能がいいとか、安いとかだけではお客様が選んでくれなくなってきているので、こういった競争をどうやって勝ち残っていくのかが大きな課題となっていますし、競争に負けると弊社はもちろん、サプライヤーさんも含めて影響があるという話になりますので、磐田市内の産業自体に大きな影響が出てくることもあると思いますので、中小のサプライヤーさんとどう連携していくかということも、今課題として捉えています。先ほど商工会議所にもいろいろ相談がきているというお話だったのですが、そういったところも含めて協

力できることがないか考えさせていただきたいです。もう一つ課題として感じているのは、環境教育の難しさと、若年層は学校で教育を受けているので、最近の新入社員はすごく意識が高いです。社内でも、やはり若い人の方が感度が高いですし、SNSなども自分から見にきてくれるのですが、やはり年配の方にどうやって浸透させていくか、そもそも環境に興味を持ってもらうかが、今大きな課題となっています。こういう世代の方でも、「うちは中学生の息子が学校に行っているけど、そんなこと知らなかったわ」みたいな感じで、子供の教育を通じて親世代にもうまく拡散する方法を考えられないのかなと、そういうところも皆さんと一緒に何かアイデアを出していければいいかなと思います。

【小野委員】

私は第9期から参加させていただき、回数はそんなに多くはないのですが、2年過ごさせていただき、今日改めて10期で新しい皆さんのお話を聞いて、すごくワクワクしています。皆さん一人一人が、ご自分が今やっていらっしゃる立場とか、いろいろなこととお話しいただいて、もう今この時点ですごく刺激を受けています。私は7年ぐらい前から、実は保崎さんと同じですが、桶ヶ谷沼のビジターセンター、もともと市の施設ですが、そこにパートで就職して、今、運営は「NPO法人桶ヶ谷を考える会」がしており、NPO法人の事務局の立場もあります。そういうことを通じて、桶ヶ谷沼だけではないですが、今まで先人の方たちが守ってきた、歴史と結びついた自然を、桶ヶ谷沼も徳川家康にゆかりがあるところなのですが、他にも市内にそういった歴史的にも意味があるような、自然環境がたくさん残っています。一方で先進的な工場があったり、農地がたくさんあったり、すごくバランスのとれた住みやすいところだなと、磐田市民歴40年の私としては思っています。仕事を通じて、本当に自然やいろいろな種類の生き物のすばらしさというのを日々感じています。これからも、この環境計画の総論にもありましたが、緑と自然が豊かな、歴史と文化が香るような磐田市であってほしいなという思いで参加しています。今日すばらしい方たちがいらっしゃるので、この会議だけで終わらずに、ぜひ、ここで人脈をつくっていただいて、いろいろな立場の方が、環境のために協力していけるといいなということを改めて思いました。

【玉木委員】

僕も9期から、3年目に突入したのですが、ふだんは産業用金属加工メーカーで、機械の開発設計をしております。これまで、社会人7年目、現場の工程管理をやっていたので、そこで人材育成や、現場の改善をやっていくときに、もともと僕も環境問題に対して意識が高かったので、現場でどうやったらごみが出ないようになるだろうと考えるメンバーとなって、現場を改善してきたところです。2年前の応募を見て、この製造現場からも何か伝えられるかなと思い、応募させてもらい、環境問題を何とかしたいなと思っています。1番の思いとしては、僕は人だったり街だったり、いろいろな企業や組織が繋がったら、いろいろな社会問題、課題も解決するのかなあと考えていて、対話を作ったりしながら、いろいろなつながりをつくっていきたいと思っています。何かこのようなつながりが生まれると、できないこともできるようになるのかなと思いながら、社内でも対話の場をつくったりしています。個人的には、雪まつりというイベントや、地域の実行委員もいくつかやっています。そういうところで、次世代の育成をやりたいなという思いもあり、環境を伝えるにはエンタメ要素も大事かなというところで、同世代で合宿に行ったりして、料理をしている時に、「ごみをしっかり分別しないと」みたいなことを言うと、「何でそんなに詳しいの?」というところから、アプローチもできて、しっかり育成する大事さに気づききっかけを与えるのが大事なのかなと思います。環境教育もすごく大事だと思っていて、今年ごみ対策課と連携させてもらい、小学生にごみが出ない商品を考えてみようというワークショップも開催させてもらったのですが、創造性ってこれから大事になってくるなと思っています。社会課題を解決する時に、「お金はどこから持ってくるの?」ということで、僕もいろいろな方からボランティアは継続性がないだろうと言われることもあり、「頑張ります」というふうに答えています。やはり環境教育もそうですが、創造性というところを、次世代にも気づかせていきたいなあと考えています。親の実家がお茶農家なので、今、企業も農家も人材不足や、後継ぎがないと言われていて、では人を連れていけばいいのかなというところから、同級生とイベントをつくりいろいろなことをやってみていますが、人が行くだけだと、結局事業で回らないのかもしれないということも思います。次世代にもっと

課題を根本的に解決する力をもってもらえるといいのではないかとこのころで、考えるきっかけをこれからつくっていきたいなと思います。皆さんとお話をさせてもらい、連携して、いい街をつくっていったらいいのではないかと思います。

**【萩本委員】**

私は、小野委員や玉木委員と同様に前期から引き続き委員を務めさせて頂くこととなりました。環境市民委員に応募した理由は、前期に引き続き、第2次磐田市環境基本計画後期計画の推進状況と計画達成状況を確認していきたく思ったからです。又、先の人から話にありましたように年寄りで感度が鈍くなってきているかもしれませんが、環境は自分たちが生活する中で一番大事な事だと思っていますので、現役時代に会社で環境に関する事もいろいろとやってきた経験が生かせればと思い応募しました。感度がちょっと鈍ってきているかもしれませんが、年寄りがまた何か言っていると思われるかもしれませんが、過去の経験も含めて、何か言えることができるのではないかなと思っています。特に、目標を達成してく為には、PDCAサイクルをしっかりと回していくことが大事だと思います。それと同時に、環境を含めて世の中の変化がものすごく早く激しい時代です。行政は、計画を決めたのだから決めたことだけをしっかりとやっていくのだというところがあるように印象を持っていますので、柔軟性持って変えるべきところは変えていくということ、この計画や方針にこうあるけれど、このように変えたほうがいいのかというアドバイス等もできて、より良い生活環境を実現できるように貢献出来たらと思っています。昔の経験をベースとした話をするのは、今の現役世代にとって参考になるかどうか分かりませんが、そういう視点からも意見をさせてもらうことあるかと思います。よろしくお願いします。

**【鵜藤委員】**

いわた消費者協会に所属して 19 年目なのですが、以前、敷地川で水生生物調査をやっていたのですが、高齢化が進んで、今は桶ヶ谷沼で調査などをやっています。ふだんは、静岡県地球温暖化防止活動推進センターと一緒に「アース・キッズ」という小学校高学年に向けて環境教育をやっていて、本当に真剣に子供たちが取り組んでいますし、私も勉強になります。あと、ご

み対策課とも食品ロスの取組みをさせていただいて、事業者はすごくごみを減らしてくれているけれど、家庭ごみが全然減っていかないよということで、毎年キャンペーン活動もやらせてもらっています。来月、「にこっと」で掲示物等をやらせていただいて、軽トラ市でも、市民の皆さんに声掛けさせてもらって、地道に皆さんに直接アタックしていくという感じで、「環境について、考えてくださいね」と伝える活動をさせてもらっています。今日、皆さんすごく深いなと思って刺激を受けていますので、持ち帰って、会員と他の方にもこんなことをしている団体もあるのだよということをお知らせできたらいいなと思っています。

【内野委員】

私は県の元職員で、内藤さんのように、経済産業部から、当時は環境森林部で自然触れ合いの仕事をしていました。私も高齢者の1人です。皆さんがおっしゃるとおり、ここに来られる方の意識が高いなと本当に刺激を受けています。自治会連合会の話ですが、毎年6月に地域の環境活動として、ごみ拾いをしています。福田のほうでは海岸のごみ拾いを組織の活動としてやります。自治会の役をやると大変だと言って、「やりたくない」「働いているからやめる」「受けられない」など言うのですが、負荷を減らすために渚の交流館とジョイントとして、年4回、豊浜地区はそちらに参加する仕組みをつくることにしました。豊岡や豊田、磐田の市内からも家族連れで来るので、私事として来てもらってそれを親子で話をしながらやっている姿を見ると、やはりこれが環境活動のベースだなと思うことが多いです。イベントをやるときは何のためにやるかということを忘れないでほしいです。去年どおりにやるのだったらもうやめたほうがいいです。それともう一つ、産業の中で、農業も、実は自然破壊をして農業が生まれているわけですから、山を焼いて、畑をつくって、環境にどれだけ負荷をかけない農業ができるかというのが、これからの生き残りじゃないかと思います。ただ例えば市役所の農林水産関係で、「焼畑農業でやりたいです」と相談すると、多分担当者は「やめなさい」というのですね。採算があわないという話になって、なかなかうまくいかないです。それは実は全国的に見るとトレンドとしてはあるので、それをどうやってこの地域で育てていくかというようなことも必要なのかなと感じています。

【佐藤委員】

私からは2点、申し上げたいと思います。まず1点目は、生活環境の安定と向上についてでございます。私は自治体の上下水道事業の話合いに参加することがございます。その時に常に思いますことは、上水道施設や下水道施設の更新や維持管理を適切に行っていくことが、市民の皆様の安心安全、安定した生活環境を作り出していることです。今後は更新や維持管理を適切に行っていくと同時に、上下水道事業においても、脱炭素や循環型経済への配慮を、できるところから積極的に取り入れていかねばならないと思います。

2点目は、若者たちと共に考えることです。大学で担当しています講義の中で、「ESG 投資」を毎年取り上げています。ESG 投資といいますのは、これまでの財務情報に加えて、環境、社会これは主に人権です、そしてコーポレート・ガバナンスの要素を考慮した投資のことです。言い換えれば、投資を通して、企業に、環境問題や人権問題、そして不正に対するコンプライアンスを含めたガバナンス改革を促すという目的をもった活動です。ESG 投資に関連して、1900年代から唱えられています CSR、企業の社会的責任、また近年の CSV の考え方、つまりビジネスモデルに脱炭素などの要素を取り入れて、社会問題の解決と企業の経済価値の向上を同時に求めていこうとする考え方も教室で紹介し、学生たちと共にこれらのことを考えています。学生たちが社会に出て働くときに、これからの持続可能な社会のために何をすればよいのか、自分自身で考えてもらいたいからです。

私たちのこの社会が環境に配慮し暮らしやすい社会であり続けられますように、これからも私のできる範囲で取り組んで参りたいと思っています。

(6)その他

事務局から、今後の市民会議の予定について説明があった。

(7)閉会